

シバによる畦畔雑草抑制効果

[研究のねらい]

中山間地に存在する畦畔は法面が広く、傾斜角度が大きいため、除草作業を行う際には危険をとめない、管理者の負担が大きくなります。畦畔における除草作業の省力化を図るため、被覆植物の一種であるシバを畦畔法面に定植し、その雑草抑制効果を明らかにします。

[研究の成果]

- ①ノシバおよびシバ改良種「みやこ」（以下「みやこ」）の2種類のシバを定植すると、2年目以降には両種とも90%を超える高い被覆率を維持します。被覆するスピードは「みやこ」の方がやや優りました（図1）。
- ②雑草被覆率をみると、慣行管理では99~100%に対し、シバを定植した法面ではノシバで9~20%、「みやこ」で7~20%と低く、7月の雑草が旺盛に繁茂する時期においてもノシバで9~15%、「みやこ」で7~10%と低く維持されます（図1、図2）。

[成果の活用面・留意点]

- ①畦畔法面にシバを定植することで雑草の生育が抑制され、除草作業にかかる負担が軽減されます。シバ定植作業や活着、被覆するまでの初期の管理作業に労力が必要です。シバ被覆後は、定期的に刈払うことで省力的に維持できます。

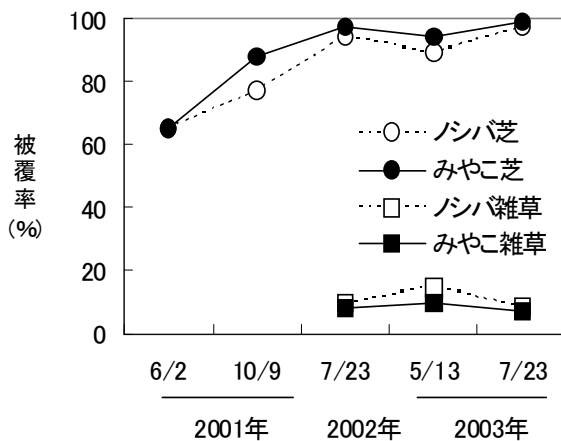


図1 シバおよび雑草の被覆率の推移



図2 シバ植栽区(左)と無植栽区(右)

実施年度：平成13~16年度

担当者：森本哲矢、浅井良裕、宮本芳城、川村和史